平成２７年度　各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	県南	学校名	一関市立大東中学校	ＴＥＬ	0191-75-2227

すべての生徒に「できる」を実感させる授業改善への取組

【今年度の目標】

○　すべての教科で「授業内容がよく分かる」の１、２番（肯定）の回答を増加させる。または、県平均を上回る。

○　「家庭で勉強する内容は、どれに近いですか」の３番、４番の回答を増加させる。

○　「授業の目標を確認している」「振り返る活動をしている」の４番の回答を０に近づける。

○　「友達の前で自分の意見を発表することは得意」「友達に伝えたいことを上手く伝えることができる」の肯定的回答を増加させる。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

１　年度のスタートの校内研究会において、今年度の学力向上取り組みについての共通理解

２　一人一授業を実施するための体制づくり

３　少人数指導を実施するための組織づくり

４　短期シラバスの作成と活用

【具体的な取組】

１　学力向上を図るための共通理解を図る

（１）目標の設定

以下のような目標について校内研で検討した。

①　「授業の内容がよく分かる」の項目の肯定的回答をすべての教科で県平均を上回りましょう。

②　「家庭で勉強する内容はどれに近いですかの」の項目で、予習の回答を増加させましょう。

③　「授業で、はじめに目標を確認している」の項目で、４の回答を０にしましょう。

④　「授業で、最後に学習の振り返る活動をしている」の項目で、４の回答を０に近づけましょう。

⑤　「友達の前で自分の意見を発表することは得意」の項目の肯定的回答を増加させましょう。

研究会では②についてとくに議論が交わされた。教科の特性や学習スタイルがあるので、教科によっては復習にウエイトを置きながらも、全体としての目標として確認した。

（２）指導過程における重点項目の提示

「わかる」の状態を向上させ、「できる」を実感できる授業の改善を図るために、『平成２７年度学校教育指導指針』で示された「わかる授業チェック１０項目」から

2	**『目標の吟味』**を行っていたか
4	**『学習課題の把握』**をしっかりとさせることができたか
7	**『本時の学習を振り返る場面』**を設定することができたか
10	**『適切な自己評価』**をさせるための指示を出していたか

の４項目を重点項目〈授業改善の視点〉として、授業に組み込んでいく指導過程を実施することとした。

２　授業改善に向けた取組

（１）学年単位で行う学年交流授業

①　一人一授業を実施するために、各学期に１回、年間で３回の学年交流授業を実施する。６月、１１月２月に期間を設定して年間を通して全員が研究授業を提案する体制を作った。また、授業者は学年会で決定し年間の計画を作成した。

②　実施にあたっては、学習指導案（略案で可）を準備する。研究授業には、校長（副校長）が参加することを基本にして、授業後には学年研究会を行う。ただし、研究会は短時間でよいこととし、無理のない範囲で行う。

③　授業展開においては、〈授業の視点〉を活かしたものにすることとし、『学習課題の把握』『本時の学習を振り返る場面』としてのまとめ、評価問題の提示の在り方、『適切な自己評価』の在り方に重点を置いて、『できた』の実感に迫れるような授業を工夫した。

④　学年研究会では、「〈授業改善の視点〉がどう活かされたのか」を話し合いの柱の一つとすること。

≪研究部だより・・・　９月１０日　３年数学少人数指導での授業研究会から≫

■授業者から

・振り返りの場面を①学びの振り返りと②課題解決ができたかどうかの振り返りの２つを設定した。

・文字を使った立式と解の吟味の２つの場面で揺さぶりをかけ、思考を深めさせようとした。

・自己評価は小テストや評価問題を準備し、学習理解度を授業後に確かめる場を設けている。・・・

■質問・感想

・本時学習課題はこれでよかったか？問題解決の基本は既習事項の活用ではないのか。
　また、課題とともに評価問題も同時に示されたことに驚いた。

・全体で解答をまとめ、「振り返りの場面」を設定し、今度は評価問題に取り組むという活動の繰り返しがよかった。・・・・

（２）短期シラバスを活用した評価計画の作成

「授業のねらいを明確にすること」「計画的な評価をすること」を踏まえ、授業予定表として活用している短期シラバスの様式を改善した。

これには、今日学習する〔 単元・節 〕と〔 教科書のページ 〕、本時の ≪学習課題 ≫と≪まとめとしての確認事項≫を明示し、さらに、本時の〈 評価確認問題 〉を記入することにした。

これを作成することにより、先生自身が見通しを持って授業を進めることができるように工夫した。

年間時数	単元時数	単位時・学習範囲等	教科書・ワークページ	学習授業内容（学習課題）	評価・確認事項（まとめ）	授業の評価確認問題等
73	73	単元テスト		単元テスト		
74	74	4章　平行と合同 1節　平行線と角	P98～99	『三角形の内角の和は180°である』ことを説明しよう	●三角形の内角の和は180°である ●三角形の外角は それととなり合わない2つの内角の和に等し	三角形の内角の和が180°になることを友達に説明しなさい。
75	75	4章　平行と合同 1節　平行線と角	P99～100	『三角形の外角の性質』を使って角の大きさを求めよう	●スリッパくん と ●コンコンさん	P100　問5 下の図で、∠χの大きさを求めなさい。
76	76	4章　平行と合同 2節　合同な図形	P102～103	合同な図形について成り立つことをまとめよう	●　△ABC　≡　△DEF ●　合同な図形は 対応する線分や角は等しい	①△ABCと△DEFが合同であることを合同の記号を使って表しなさい。 ②（合同な図形を見て）対応する辺の長さを求め
77	77	期末テスト		期末テスト		

【教科担任が打ち込み用に使っているシート】

（３）全学年の数学での習熟度別クラス編成による少人数指導の実施

年度初めの教科オリエンテーションで趣旨説明を行い、本人の希望を優先させてコース（基礎コース）（標準コース）を選択させている。コース変更は随時可能であることとし、単元テスト、校内定期テスト後に個人面談や変更希望の呼びかけをし、柔軟に対応できる体制を取っている。

３　家庭学習の質の向上・基礎基本の定着

（１）まなびフェスト問題集の作成

各学年で必ず身につけて欲しい内容を、教科書や県学調問題から選び『まなびフェスト確認問題集』（全50ページ程度）として学年別に作成。一学期前半に生徒に配付している。問題集の活用を図るために、教科担任が活用の責任者となり

ア）校内定期テストの出題範囲に加え、学習成績に加味する。

イ）「まなびっこ検定」（８割以上合格）を研究部が中心となって実施する。

「まなびっこ検定」の結果は、満点者、平均点を学校校報（校長）に掲載して家庭へも知らせている。

第２回まなびっこ検定実施要項
1　日時　12月7・9・10・15・16日
2　教科　国・社・英・数・理の順に５教科
3　取り組み方法
①11月27日➡実施要項説明
②事前取り組み　➡委員会で
➡学級で
③検定日時：朝読書の時間
4　合格点　８０点
5　フォローアップ（再フォローアップ）
12月17日・18日・21日
6　その他
「学びフェスト問題集」からの出題なので
各教科で授業でも取り上げて指導すること

（２）生徒への授業計画表〔短期シラバス〕の配付

生徒が学習の見通しを持ち予習に活かせるように、週報の裏面に生徒用時間割として配付した。

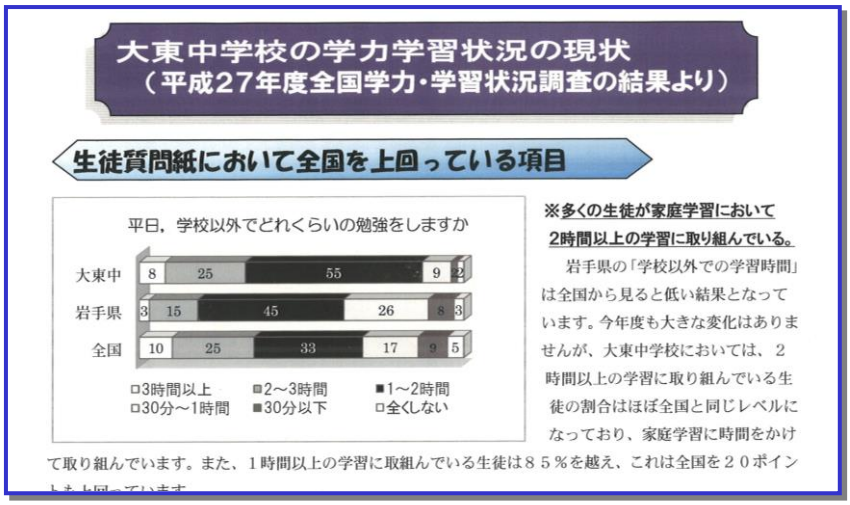
第　29　週　　２　年　A　組

	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
	月	火	水	木	金
1	数2　P94, 95 位置関係で決まる名称をまとめ、その角を見つけよう	数2　P96～98 同位角，錯角の性質を使って，図形の性質を調べよう	理2　教科書p.140~141 電気用図記号を覚え、回路図が書けるようになる	国2　教P.147～ 詩の内容と情景を考える	英2　P66-67 本文を読み、形容詞の使い方の理解を深めよう。
2	理2 単元テスト	理2　教科書p.136~139 電気器具の3つの共通するしくみを理解する	英2　P64-65 本文を読み、動名詞の使い方の理解を深めよう。	英2　P66-67 人やものの様子や状態を表すときの英文の形を理解しよう。	美2 多版多色版画の技法を学ぶ

４　保護者との連携

諸調査（新入生学調、全国学調、県学調）の学校独自の分析結果を保護者配付用リーフレットにまとめ、生徒個人の結果とともに配付している。

生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するために、学校と家庭・保護者とが一体となって学習環境の整備に努めて行くことへの協力をお願いしている。



【保護者用リーフレット】

【成果】

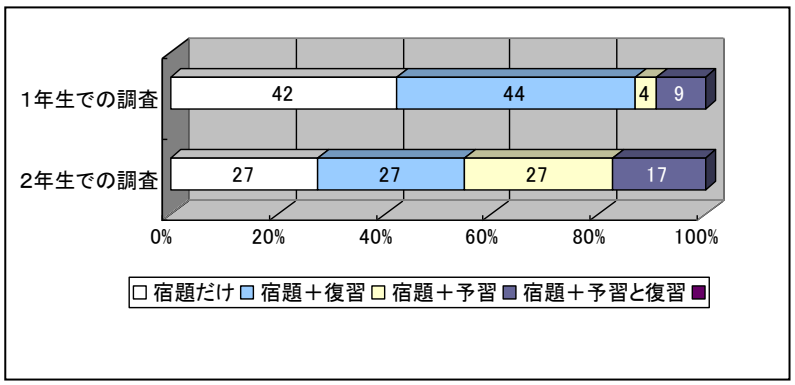
○今年度設定した目標に対して（県学調から）

・　「授業の内容がわかる」に肯定的な回答をしている生徒の割合を県と比較したとき、上回った教科は、社会〔＋５〕、数学〔＋２６〕、理科〔＋４〕、英語〔＋４〕であった。国語がわずかにマイナスの値を示し全教科で上回ることにはならなかった。しかし、国語の正答率は数学に次ぐ値を示しており、ポイントを合計した値では昨年度を上回った。

・　予習の回答を増加させること

昨年度は予習的な学習をする生徒は、わずか１３％だったが、今年度は４４％で３１ポイントの増加となった。

週予定表（短期シラバス）の活用方法を学級や各教科で指導してきており、それが生徒の意識に浸透してきていると言える。



・　「授業で、はじめに目標を確認していると思う」と「振り返る活動をよく行っている」の項目については目標の確認は昨年度の７７％から今年度９３％。振り返りは昨年度の７７％から今年度８１％に肯定的な回答の割合が増加し、課題の確認やまとめが生徒に意識されるようになった。

・　習熟度別少人数指導の実施により

①で示されたとおり、「授業の内容がわかる」のポイントでは他の教科を大きく上回っており、積極的な否定の「わからない」と回答した生徒は０であった。また、「数学が好きですか」の項目においても、県比 147 と大きく上回った。

○校内研での取組から

・　一人一授業の計画により、全員の授業提供による研究会が計画通り実施できている（11 月末現在）。そのことにより、「授業での目標の提示やまとめ、振り返りの活動がどうあればよいのか」等について焦点化することができ、授業改善についての意識の高揚が図られた。